

R.S 理化学機器メーカー勤務/営業職

岡山大学大学院

ヘルスシステム統合科学研究科卒

社会人になってまず思ったことは、会社の一員として、会社の利益のため、ひいては利益のために動かなければならないということでした。大学院生時代は、自らの興味の赴くままに実験・研究をひたすら繰り返し、その結果を分析、議論し、新たな考えをもって次の実験を行っていくというものでした。この時は、教員や同じ研究室生らによるチェックや議論はあるものの、自分一人の研究なので、成功も失敗も、期限も進め方においても自らの意思で決定することができた、つまりは自分の範囲は自分で責任を持っていたと思います。しかし今では自分が抱えているタスクを自分がどう捌くか、いつ終わらせるかによって、社内社外問わず多くの人に影響を与えるものだと気づかされ、とても難しいなと感じています。

ただ、わたしが就職先として選んだのは、私が15歳から触れてきた化学の分析装置を取扱・販売する会社で、業務を通して、私が触れてきたものや、過ごしていた環境について、新しい視点で、立場で関わっているのだとたびたび思います。具体的には、今の部署では主に大学のような教育機関に対して分析機器を販売することが多いのですが、自分が思っていた以上に、同じ製品でも異なるメーカーが存在しており、メーカーによって強み弱みがあることを、働き始めてから初めて知りました。またひとえに機器を研究室で購入するといっても、メーカーと教員の打ち合わせや、予算に対して見合った性能を有した製品であるかの検討といった、考えることが非常に多いのだと知りました。私は研究するうえで、なぜこの製品が使われているのかなどは考えもしていなかったもので、今なら教員や大学がどのようなことを考えてこの実験機器や分析機器を購入していたのか、前より幾分か分かったと思います。このようなことを考えながら仕事をしていくと、なかなか面白いと感じることができます。

ただやはり、仕事で何かしら専門を研究している人と話すたびに、その熱意に感化され、自分も研究のような、専門性をもっともった仕事をするのも面白そうだなと思ってしまいます。このような時に、やはり自分は化学が、何かしらを探求することが好きであるのだと認識させられます。正直に言ってしまうと、社会に出て私は会社や自身が利益を上げることよりも、自分が探求したいことを、明らかにしたいことを突き詰めていきたい、そしてそのうえで、社会に何かしらの形で還元していきたい人間なんだと、気づかされました。なので、いずれ専門性を持った仕事・業務ができる場所に進みたいと考えています。化学について教えることができるような仕事や、学生時代に途中で終わってしまった無機化学を再度研究できる職場であったりとか。

また、私は人と話す、一緒に過ごしたり楽しむことが好きです。写真は高専時代の友人と諏訪大社に行った時の写真になります。これからの進展も含めて、友人らとともにお願いをしてきました。大学・大学院時代の友人に関しても、就職した後もよく会っている方だと自負しています。これも結局先述の通り、人と何かを楽しむことが好きな性格故だと思います。なので、こういった人と話したり、楽しませるようなこともきっと自

分は向いているのだと考えます。先ほどは研究したい！と言っていて両極端な気もしますが、どちらも自分なので、なかなか難しいところです。とはいえ今務めている会社は、営業ということもあって人と話して一緒に仕事をする機会は多く、自分に合っているともおもうので、もう少し知識と経験を身に着けて、自分なりの考えをはっきりさせながら、自分にできることを、自分にしかできないことを、少しずつできていけるような、そんな人間になりたいなと、というかなってみせます。

最後に、私が長崎の実家で過ごしたのは中三まででしたが、私が長崎を出て思ったのは、長崎って案外いいところだったんだな、ということです。坂は多いし全国的にみたら田舎ではあるけど、ご飯はおいしいし、面白い場所はいっぱいあるし。子供の頃には気づかなかったよさも、今となっては沢山あります。なので、長崎を出た後になって長崎のことを調べて、県外の人に長崎について尋ねられた時に、ここがいいよ！ここが面白いよ！ここ美味しいよ！といったものを勧められるようにしていたぐらいです。そして、私が長崎を出るときに一つ決めたことがあるのですが、それは、故郷に胸を張って帰れるような人間になること、です。正直私はまだ何者にも成れていませんが、私が十分誇れる人間になったときには、長崎に帰って長崎を盛り上げていきたいです。でも正直長崎が恋しくて、そんなこと言う前に帰っているかもしれません。ともあれ、これからも今まで得てきたものを存分に発揮しながら、頑張っていこうと思います。